

設立までの経緯

●保育施設設置の背景

有限会社サイトウ・メディカル（以下「サイトウ・メディカル」という）では、従業員の94%が女性で中高年世代が多く、会社が発展していく中で、次世代を担う人材の確保や離職防止が課題となっていた。その対策として、魅力ある働きやすい職場を検討した際、「保育施設があれば入社したい」という声があり、従業員の子育てと仕事の両立を支援するためにも、安心して子どもを預けられる保育施設の必要性を認識するようになった。そこで取締役が中心となり、法人グループに働きかけ、法人グループの副理事長らとともに事業所内に保育施設を持つ企業を視察し、保育施設の設置を決めた。

企業主導型保育施設の立ち上げや保育施設の運営経験を持つ人に助言をもらいながら、サイトウ・メディカル内に保育施設開園準備室を立ち上げた。保育施設開園準備室にて、従業員の保育施設への要望の取りまとめや保育施設の申請対応、保護者説明会等の開設準備を進めた。

●従業員のニーズの把握

保育施設設置の必要性を確認するため、アンケートを実施して従業員に保育施設設置の賛否、受け入れて欲しい子どもの年齢などを聞いた。その結果、保育施設設置に賛成する声が多いこと、0歳～2歳児の利用要望が多いことを確認でき、保育施設設置へと踏み切った。

保育施設の運営内容を検討した際は、従業員に開所時間の要望や利用意向等をヒアリングした。

●設置場所の確保

近隣で保育施設を新築する予定だったが、市街化調整区域が多く、見つけられなかった。最終的に、法人グループの施設に挟まれた場所で、コンビニエンスストアだった建物を改修し利用することにした。

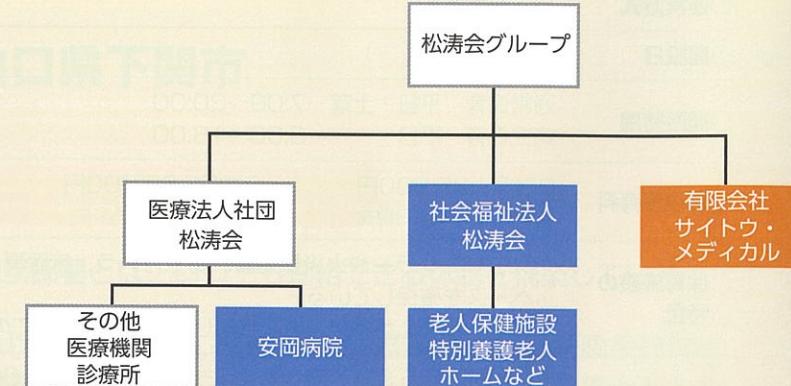
●設置方式・運営方式の決定

保育施設の開設にあたり、サイトウ・メディカルの取締役が法人グループ全体に保育施設の利用を働きかけたところ、2社から共同利用の要望があり、単独設置・共同利用になった。

運営は、継続的に質の高い保育の提供や保育士の育成、保育施設職員の世代交代や継承が円滑に行えるよう、また、保育施設職員が同じ法人グループの従業員であれば保護者が安心して相談などできるのではという配慮から、自主運営方式で行うこととした。

●企業内に向けた対応

保育料の一部を福利厚生費として会社が負担することにした。そのため、保育料は市内の認可保育所を利用した場合の半分ほどに設定した。



●設立までの流れ

時期	内容	
開設2年前 平成28年3月頃	保育施設の設立を検討。 アンケートで従業員に保育施設を設置することへの賛否や受け入れて欲しい子どもの年齢などのニーズを確認。	⇒設置検討 ⇒ニーズの把握
開設1年前 平成29年3月頃	事業所内に保育施設を設置している企業を視察。 企業主導型保育事業の情報を入手し事業の運営方式を検討。	⇒運営方式の決定
開設9か月前 平成29年6月	保育施設建設予定地の選定を開始。 市に保育施設の整備を行うことを相談。	⇒設置場所の選定 ⇒自治体への相談
開設8か月前 平成29年7月	従業員に開所時間や保育施設の利用可能性についてヒアリングし、利用者を把握。	⇒設置方式の決定 ⇒自治体等との連携 ⇒設置場所の決定
開設7か月前 平成29年8月	保育施設開園準備室を設け児童育成協会へ助成申請。	⇒準備室の設置 ⇒申請手続き
開設3か月前 平成29年12月	保育士や職員の獲得に向け、募集や社内の人事異動を検討。	⇒人材確保
開設2か月前 平成30年1月	社内に保育施設の開所日を告知。 共同利用企業を含めた利用希望者向け説明会の開催。 園児募集開始。	⇒説明会の開催 ⇒利用者の募集
平成30年3月	保育施設開設。	⇒開設

運営のポイントの詳細

●自治体との連携

サイトウ・メディカルでは、これまで配食事業等を進めるにあたって市に相談をしており、市と良好な関係を構築していた。

保育施設の設置決定後に、市のこども未来部幼児保育課へ報告を行ったところ、市の担当者が企業主導型保育事業をよく知っていて、様々な相談に乗ってもらった。市内の待機児童の状況や保育施設の申請手続き、保育施設開設にあたっての留意点について情報提供や指導をしてもらった。病児保育事業を開始する際には、案内パンフレットを市の窓口に置いてもらった。児童虐待に関しては、事例を交えながら指導を受け保育計画づくりの参考とした。市から助成金や補助金の案内もあり、下関市多子世帯保育料等軽減事業助成金や下関市民間保育サービス施設入所児童処遇向上事業補助金を活用している。

その他、公園緑地課からの園外活動で使用する広場の使用許諾、消防局からの消防訓練の指導、総務部防災危機管理課からの災害情報や不審人物・危険動物などの出没情報の随時提供など、市の各部署と良好な関係を築いている。

●地域との関わり

保育施設の両隣に同じ法人グループが運営する介護老人保健施設があって、子どもたちが散歩していると介護老人保健施設の職員が手を振ってくれるなど地域で子どもたちを温かく見守る環境ができつつある。介